



NORTHERN
STATION GATE
AKITA

エキマエ、はじまる。

2025年10月23日

JR東日本秋田支社

エキマエ、はじまる。さんど市 11月期

初の県外PRイベント「じゃわめぐ！津軽フェア」を開催します！

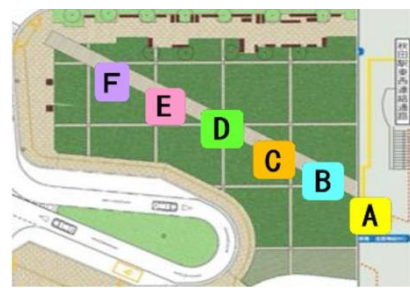
JR 秋田支社では、秋田駅周辺のにぎわいを創出するため、2021年11月から「エキマエ、はじまる。さんど市」を開催しています。11月期は、初の県外PRとして青森県津軽エリアの食・文化・観光をテーマにした体験型イベント「じゃわめぐ！津軽フェア」を開催します。

津軽らしさを感じられる体験コンテンツや特産品販売、地域の魅力を発信する多彩な催しをご用意しています。ぜひお越しください。

※じゃわめぐとは津軽弁で心躍る、ワクワクするといった意味です

1 開催概要

日 時：2025年11月15日（土）10時00分から15時00分まで
場 所：秋田駅西口駅前広場（芝生エリア）
主 催：JR 東日本秋田支社
後 援：秋田県、秋田市
協 力：弘前市観光部、弘前市七夕会、津軽三味線滝栄会、ツル多はげます会
移動雑貨店 Skip、青い森珈琲焙煎所、カフェ・ド・アミ、三ノ月舎
赤羽屋磯辺商店、株式会社生き活き市場 虹のマーケット
株式会社 JR 東日本青森商業開発



【会場図】

2 イベント内容

(1) 津軽のお祭り・演奏ブース【会場図 A】

- ① 弘前市七夕会によるねぶた囃子を演奏します。

(1回目)10:00～10:30

(2回目)13:00～13:30

- ② 津軽三味線滝栄会による津軽三味線の演奏と演奏体験を実施します。

(1回目)11:00～11:30

(2回目)12:30～13:00



【弘前市七夕会】



【津軽三味線 滝栄会】

(2) ツル多はげます会によるにぎやかし【会場図 B】

- ① 鶴田町のユニークな活動を行う団体「ツル多はげます会」が登場します。

- ② 吸盤綱引きや安全祈願パフォーマンスなどの演出が行われます。

(1回目)11:40～12:10

(2回目)13:40～14:10



【ツル多はげます会】



【たか丸くん】

(3) 弘前市観光 PR ブース【会場図 C】

- ① 観光パンフレットの配布や、体験ツアーの紹介、キャンペーンPRを行います。

- ② 弘前市マスコットキャラクター「たか丸くん」がやってきます。

(4) 移動雑貨店 Skip によるワークショップ&雑貨販売ブース【会場図 D】

- ① お子さまから大人まで楽しく作れる「じゃわめぐ！津軽なワークショップ(有料)」を行います。

- ② りんごや津軽をモチーフにしたクラフト品、ベーグル・焼き菓子・県産野菜を使用したドレッシングの販売をします。



【移動雑貨店 Skip】

(5) 飲食スペース【会場図 E】

テントを設営しテーブル、イスをご用意します。飲食店ブースで購入した方はぜひご利用ください。

(6) 飲食店ブース【会場図 F】

出店名	販売商品	商品紹介	
青い森珈琲焙煎所	ドリップコーヒー、ココア ホットりんご、スコーン	白神山地の水で淹れた 自家焙煎スペシャルティ コーヒーです。	
カフェ・ド・アミー	パイ料理 赤いりんごのアップパイ	ヨーロッパ各地の古典料理を ベースに焼き上げたパイ料理、 また青森県産紅玉のアップル パイです。	
虹のマート	いがめんち	魚のすり身と野菜を香ばしく揚 げた弘前のソウルフードです。 ご飯のおかずにも、 おやつやおつまみにもぴったりで す。	
三ノ月舎	ひばチップや、ひば水 ひばオイル等	青森ヒバを活かした三ノ月舎 の逸品。チップやオイル、水が 香りとともに癒しを届けます。	
赤羽屋磯辺商店	青森県産サクラマスと瀬 戸内海の塩 青森県産タコの頭の乾 物	新鮮なサクラマスやタコを使用 し、添加物を一切加えず仕上 げた昔ながらの自然な旨みが 楽しめる逸品です。	
BRICK A-FACTORY	アップルパイ	弘前の人気洋菓子店「ボンジ ュール」監修により店内で焼き 上げる自家製アップルパイで す。	

3 その他

- (1) 提供されている写真は、すべてイメージです。
- (2) 掲載内容は予定であり、変更・中止する場合があります。
- (3) イベントの有料体験コンテンツや、飲食ブースの商品はなくなり次第販売終了となります。

4 12月期の「エキマエ、はじまる。さんど市」について

12月6日（土）に「クリスマス」をテーマにしたイベントを開催します。

○「エキマエ、はじまる。さんど市」とは・・・

プロジェクト名の「エキマエ、はじまる。」と「さんど市」を掛け合わせたものです。「さんど」とは第3土曜日に開催されること、また様々な具材があるサンドイッチになぞらえて、秋田駅周辺の事業者との融合や幅広いコンテンツを織り交ぜた催しであることを「さんど」で表しています。そして、多くの人が集う場所を意味する「市」をとって「さんど市」としました。